


 澗 美



特別
 入5
 6673
 39
 早稲田大学図書館



明和九壬辰歳



祝儀

幸々何事も無事にて

おくれありと存じ

足馴し松の下産を

先きに承りんと

内書紙

栞紙も承りて候し

何とぞ承り候

元旦

桐宇

明け初日のうらみも承り候し

幸々よあけおし候し先く暮中

おさむしと申す候し元旦

歳祝

あけおし申す候し初産松水

産まぬやむふ目まの孫よく仕舞

者よつらふとあけし初産又歳

暮れや涙あきとの七あけり五有

初産松のふしと初産のきり巴

ふしやんふと承り候し内書紙

若餅や柿のききも熟のあり 品類
初熟や沙井子おの心むしうと 暮也
種々のきかりし似く扇積板煙 乃推
又柿やきふふくもあつ 味 且吹
初熟のや板柿やきよのころ 李言
初熟のやきこころ富き成るなり 御初
きそくむしと味もあつ 五初
板下弓や種より祖父の柿より 初初
系果よあつむしなり 常五
初熟のやきなり 初日熟 初五

柿
榮葉

せらぎ柿きの中を柿
あつり せらぎ柿
あつりの柿きなり

初五

柿のききもあつり 柿の梅
柿はもきなり 柿の人の似 五初
柿のききもあつり 柿の梅 杜梨
世界をせきふくむもの之 五有
あつり 柿のききもあつり 五初
柿のききもあつり 柿の梅 且吹
柿のききもあつり 柿の梅 初五
柿のききもあつり 柿の梅 初五

ありあけのきうくひ又ひんくひ 桐宇
 木口くへ 伊勢のおろし 養心
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん 春の
 嬉々 嬉々のお代り 春の 湖船
 けいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけい 又徳
 夕のきんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん 新の
 名えうりうりうりうりうりうりうりうりうりうり 辛五
 おろしをきんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん 呂類
 志ぬはのきんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん 呂巴
 儼々うりうりうりうりうりうりうりうりうりうり 呂同
 右
 類かき一類

卯
 山本音

喜か一二 羨美 陸廻の
 幸七うりうりうりうりうりうりうりうりうりうり
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 人の話うりうりうりうりうりうりうりうりうりうり
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

五輪をへ

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

